



一般社団法人 大日本武徳会

会報 **武徳**

2024.4 春季号



〔表紙写真…春の武徳殿〕

二〇一二年に全国武徳祭五十周年を記念して本会により桜の木が旧武徳殿裏門の前に植樹されたことは記憶に新しい。美しい桜の花びらの色合いと艶やかさが優雅に浮き上がりそこを訪れる人々は歴史の深さを感じながら静かに感動する。本会が唯一かつ最大の誇りとする歴史的な道場である旧武徳殿は一八九五年に本会が創立された五年後の一九〇〇年に建立された日本伝統武道の統一的始まりとする最も重要で由緒ある建造物である。本会は正に、多くの先達の血のにじむような叡智の結集と堅忍不拔の努力により武徳殿建立が実現したことから始まったと言っても過言ではない。

人間の叡智とは秘境の谷間の奥にある深遠な智慧を指し、即ち物事の本質を見通して考えることができる希少な知才を持つことを意味する。さらに哲学の世界の形而上的な領域を超越した深い認識を示し、物事の真実の存在感を理性的に理解する能力も有する。したがって、則天去私の境地と「叡智」は神がかった才知という謂れもある。

唯物観的な思想が氾濫支配する現代世界で本来のあるべき真理はなかなか見いだせないのが世の常である。我々は再び原点に戻り、百三十年近く前に生み出された先達の叡智の結晶である旧武徳殿の床と柱に触れ、そこにある揺るぎなき不滅の魂を感じ、自らの道を再考する事が次の未来的前身の第一歩となる事を祈願して止まない。

濱田鉄心

撮影 事務局

本会の組織的課題

濱田 鉄心

本会会員の皆様には平素より一般社団法人大日本武徳会発展の為、格別なるご厚情とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。そして新年早々から能登半島地震が発生し多くの方々がお亡くなりになりました事に深くお悔やみ申し上げますと共に被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。さらに被災地の皆様が一日も早い日常を取り戻されますことを切にお祈り申し上げます。

去る二月四日に第十五回武道執行専門委員会が開催され、ご出席いただいた先生方には本会が目標とする安心安全、有意義で感動的な行事の実施、そして伝統武道の保存継承に相応しい礼節に則った大会行事の運営について活発な意見交換をいただき、有意義な成果が出されました。武道執行専門委員の先生方の役割は会員参加者の熱意あるご協力のもとに成立します。私達は多くの反省材料を基にして、謙虚な態度で今直面している多くの課題に対してそのリーダーシップを発揮する努力が必要と考えます。さらに参加者全員の皆様に本会の名誉と誇りを感じていただけるように最善の努力を惜しまないという決意で閉会の運びとなりました。ご参加くださった先生方に深くお礼申し上げます。

そして引き続き第十一回一般社団法人大日本武徳会定時社員総会が開催され重要議題案に沿って決議事項が詳細に説明された後、出席社員の大多数の賛同を持って全て決議承認されました。本年度予定されております主催事業の数々に多くの先生方がご参加されますことを心よりお願い申し上げます。特に創立百二十九周年を祝い四月二十九日開催の第六十二回全国

武徳祭や四月二十八日開催の第二十九回全国青少年武徳祭、春の高段者審査会、さらには九月八日開催の嚴島神社奉納古武道演武大会、十月二十七日開催の第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会などこの一年を通じてこれらの行事が本会の目指す日本伝統武道の保存継承や武道を通じた健全な青少年の育成などに大きく寄与する事を期待致します。文武一徳の実践から本会会報の出版にも寄稿記事などで精力的なご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本会が現在一番厳しく直面していますのはこの数年間のコロナ禍における社会変動の真ただ中で著しく会員の数が減りつつあるという現状です。高齢化による活動の低下、病氣、失業、熱意の低下、若い世代の参加人数の激減など多くの要因が重なり正会員、一般会員、青少年会員などが退会、休会しており本会執行部は危機感を持っています。十二年前に法人化して以来、最大の組織的課題として真剣に取り組んでいかなければならない時期に直面しています。

本会執行部と事務局はこの状況を打開するために具体的な方策として以下の対応に取り組んでまいります。

- 一、本会の情報発信をホームページなど通じて能動的に駆使し、さらに活発に推進する事。
- 二、ホームページに記載されている団体などの紹介を動画やPR資料を加えて大々的に改善する事。
- 三、その他公共組織や、各地において適切な宣伝が可能な所で本会のPR

を積極的に進める事。

しかしながら、一番肝心な所は現在本会に登録されている各団体で会員数を一人でも増やす努力をしていただけると非常に大きな原動力となり得るということです。大日本武徳会は各流派の伝統を尊重するユニークな多様性が特色です。本会の草の根の発展亡くして未来的発展はありません。本会の全ての会員の皆様にお願ひ申し上げたいのは襲古還新の意義を総合的なチームワークで実践していただく事です。即ち、古きを襲いて何を遺すか、そして如何にして新しく変化していくかです。今我々が直面しているのは極めて重要な組織的課題です。私達が引き継いできた本会の誇りある百三十年近い伝統を未来に力強く継承していく為にも、この紙面をお借りして是非とも皆様方の叡智を結集したお力とご協力を切にお願ひ申し上げます。

本年度の主催行事においても国籍や文化を越えてどのような感動が生まれ、輝かしい歴史の一ページとなるか、それは私達会員一同の弛まぬ情熱にかかっています。皆様の精力的なご尽力とご協力を深く感謝すると共に、本年度の主催事業の全てが安全無事、成功裡に導かれることを心から祈願致します。

末尾に総裁東伏見殿下を始めとする全ての本会会員の皆様のご健康、ご多幸ご発展をお祈り申し上げます。





第十一回定時社員総会 及び
第十五回武道執行専門委員会

日時 令和六年二月四日（日）

場所 京都東急ホテル

第十一回定時社員総会の報告

令和六年二月四日（日）午後一時半より京都東急ホテル祇園の間において一般社団法人大日本武徳会第十一回定時社員総会が開催された。出席社員八十九名（委任状提出者五十七名含む）により本定時社員総会は成立した。一般社団法人法に則り本会定款と内規に従って左記のとおり報告事項並びに決議承認事項について報告致します。

記

第一議案

二〇二三年度事業及び収支決算書の件
（二〇二三年十二月一日から二〇二三年十一月三十日まで）
原案どおり決議承認された

第二議案

二〇二三年度会計監査報告の件
原案どおり決議承認された

第三議案

二〇二四年度事業計画書承認の件
原案どおり決議承認された

第四議案

二〇二四年度収支予算書承認の件
原案どおり決議承認された

第五議案

二〇二五年創立一三〇周年記念特別企画案の件

第六議案

内規追加修正事項について説明

第七議案

武徳会館・事務所開設について説明

第八議案

第十五回武道執行専門委員会の具体的な内容が報告された

第九議案

二〇二三年創立一二八周年記念主催事業について報告された

第十議案

後援事業大阪府支部武道研修会

報告事項

会員増強対策案・ホームページでの各団体PRについて説明、会報編集委員会から報告された
その他重要事項について説明があり、質疑応答に入った

以上

一般社団法人 大日本武徳会

理事 渡邊 佳代子



令和五年度

第十五回武道執行専門委員会の報告

国際部 坂本 俊一

二〇二四年二月四日（日）京都東急ホテル「鞍馬の間」において、一般社団法人大日本武徳会 第十五回武道執行専門委員会が開催されました。私は、武道執行専門委員・本部役員として本会議に出席いたしましたので、その結果についてご報告いたします。

今回、出席した武道執行専門委員の先生方は、濱田鉄心武道執行専門委員会委員長（以下、「濱田委員長」とする）以下三十一人でした。

また、今回の主な議題は、

- 本会の武道種目別会員数の実態と課題
 - 全国武徳祭における大会役員の役割と責任
 - 奉納古武道演武大会における礼式と規範及び注意事項（平安神宮額殿・嚴島神社祓殿）
 - 二〇二四年度、創立百二十九周年記念本会主催事業予定とされ、大会検証委員、大会管理運営委員、大会進行委員及び大会表彰委員の各テーブルに分かれて積極的な意見交換が行われました。
- 会議の主な内容は、以下のとおりです。

一 冒頭、濱田委員長から、新任の武道執行専門委員の先生方である、薮崎聡先生、土屋恭之先生、中野秀人先生及び野川栄一先生の四人が紹介された。

また濱田委員長から、武道執行専門委員会設立の歴史的経緯と今後武道執行専門委員に期待することについて説明があった。

二 引き続き議題の進行に入り、まず一つ目の議題である「会員数の実態と課題」について、濱田委員長から、年齢的なものもあり会員数が減少するのは仕方ないが、これを如何に最小にとどめ、尚且つ十パーセント増やすにはどうするか、これを喫緊の課題として受け止め、しっかりと検討してほしい旨の説明があった。

三 次に、濱田委員長より、二つ目の課題である「全国武徳祭における大会役員の役割と責任」に關し、

- 過去の大会を振り返り、各種諸問題への対応策を検討すること
- 如何にして、安全、安心且つ有意義な大会運営を行うかを検討すること
- 伝統武道の保存継承に相応しい礼節に則った大会運営をするための方策を検討すること

との指示・説明があった。

四 続いて、「奉納古武道演武大会における礼式と規範及び注意事項」では、上村理事から平安神宮における礼式の説明があり、その後山田理事から嚴島神社における礼式の説明があった。濱田委員長より、「伝統武道の持つ多様性を尊重しつつ後世に残していかなければならない。そのため大日本武徳会では、会としての指定形の制定は行わないが、礼式は会として制定しなければならない」旨の説明があった。

五 その後、各テーブルに分かれての検討会が積極的に行われ、その検討結果について各委員長から発表があった。

まず、竹田豊検証委員長より、「演武者のため最善の環境を整え、注意事項の厳守を監督するのが検証委員。自ら武道家としての礼節・規範を示して、安全安心なる演武大会の実施に寄与する。検証委員は各受持ちコートの責任を負っているとの自覚を持つて業務運営にあたる」等検討結果の説明があった。

六 次に、山田文典管理運営委員長より、「事前の説明と意思疎通をしっかりと行い、無線機の利用など連絡体制を整える。礼式に関しては特に団体長の責任を明確にする。また会員の増加策としてホームページの充実を推進し、加えて地域の行政や福祉などとの協力を進める」等検討結果の説明があった。

七 藤井正巳進行委員長からは、「進行をスムーズに行うため、大会の進行状況を如何にして伝達するかを検討した。その結果、進行状況確認用の掲示板を張り出すとか、各道場に参加者の連絡先を確認する、検証委員やほかの委員との連携を密にするなどの意見が出された」旨検討結果の説明があった。

八 渡邊佳代子表彰委員長からは、「コロナ禍で変更された表彰方法を以前の方法に戻し、変更点を丁寧に説明する。進行委員との連携を密にする。会員数増加にあつては、ホームページ内容拡充のため、会員からの意見を集める。招聘団体の選出方法を見直す」旨検討結果の説明があった。

九 各委員長からの報告があった後、濱田委員長が総括として、「事業の成功には

組織力とチームワークが大事であり、武道執行専門委員の役割は重要である。改善策を実行して、反省検討し、より良い結果を出すよう会員の協力と支援をお願いする」旨、述べられた。

十二〇二四年度、創立百二十九周年記念本会主催事業予定について、事務局の塩田事務局長から、

四月二十八日 第二十九回全国青少年武徳祭

同日 春季高段者審査会、支部長団体長会議、大会前夜祭

四月二十九日 第六十二回全国武徳祭

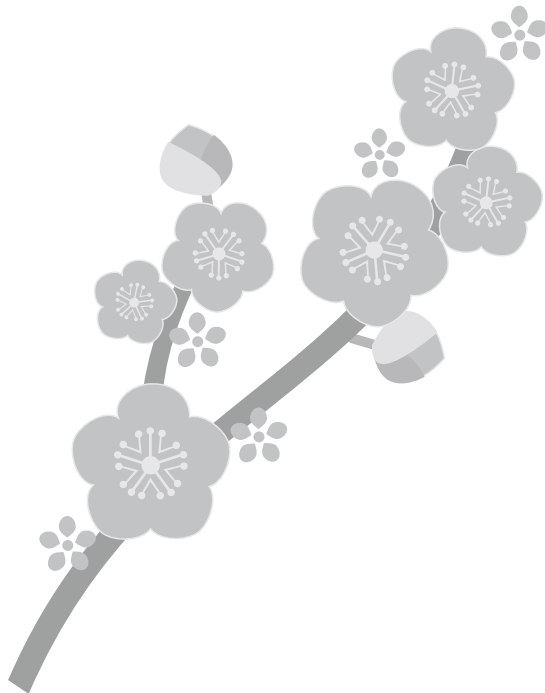
九月 八日 厳島神社奉納古武道演武大会

十月二十七日 第三十二回平安神宮奉納古武道演武大会

が報告された。

十一 閉会の辞として濱田委員長より、「昨年の反省検討を踏まえ、今年は青少年武徳祭の日程を変更したこと。厳島神社奉納古武道演武大会は多くの方の支援もありようやく再開できたことになった」などの説明があり、最後に、『襲古還新』を旨とし、本会が前向きに新しい進化と発展を遂げるため、また会員数増強のためにも、武道執行専門委員の先生方の協力が必要である」旨言葉があり、閉会となった。

以上



第11回 定時社員総会



第15回 武道執行専門委員会



未来の京都まちづくり

推進表彰の授賞式に臨んで

一般社団法人大日本武徳会 理事
一心無双流居合道剣心会 総師範

山田 文典

素晴らしい秋晴れの京都市自治記念日にあたります。一〇月一日、平安神宮の南に所在するロームシアター京都メインホールで記念式典があり、我が一般社団法人大日本武徳会は「未来の京都まちづくり推進表彰」を受賞いたしました。

この表彰は、京都市が毎年、自治記念日に数々の功労のある一〇部門の表彰の一つにあたるもので、市民生活に「うるおい」をもたらす活動に取り組んだ他に模範となる個人・団体に授与されるもので、その趣旨は、京都の伝統と革新の精神に基づいて蓄積した有形無形の文化を継承・活用し続ける「世界の文化首都・京都」の推進に貢献、更に国際親善にも貢献したことが認められたものです。

会場では、琴演奏と生け花、合唱などのオープニング行事に続いて開催されました厳粛な式典となりました。

式典では、一三四団体、七四七人（内未来の京都まちづくり推進表彰一〇三団体、三八四名）に門川大作京都市長から表彰状が授与されました。私は、本会の代表として、また、京都市民の一人として大変光栄であり身の引き締まる思いがいたしました。

本表彰は本会が京都市武道センター旧武徳殿を世界武道の聖地と位置づけ創立以来百二十八年の永きにわたり先人の弛まなない努力として積み重ねてまいりました日本伝統武道の継承と未来への発展、



武道を通じての青少年の育成、国際部と連携した国際友好を目指した取り組みが大きく評価されたものであります。

本会にとって大変名誉な表彰を受賞いたしましたのは本会先生方のご指導と会員、関係者皆様のご協力のおかげと厚く御礼申し上げます。今後、本会の活動によりますます魅力あふれる未来の京都の実現に向けて貢献してまいりたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。





第31回 平安神宮奉納 古武道演武大会



事務局撮影

日 時：令和5年10月1日（日）
午前10時30分～
場 所：平安神宮「額殿」
主 催：一般社団法人 大日本武徳会

大 会 次 第

◎平安神宮祈願参拝

午前10時30分より

玉 串 拝 礼

濱 田 鉄 心

◆◆◆ 開 会 式 ◆◆◆ 午前11時

司会進行

大会進行委員長

渡 邊 佳 代 子

- | | | |
|---------------|-------------------|---------|
| ① 開 会 宣 言 | 大 会 副 委 員 長 | 竹 田 豊 |
| ② 開 会 挨 拶 | 大 会 管 理 運 営 委 員 長 | 中 田 浩 大 |
| ③ 演 武 上 の 注 意 | 大 会 検 証 委 員 長 | 山 田 文 典 |
| ④ 祓 い の 儀 | 居 合 道 範 士 八 段 | 村 田 雅 人 |

◆◆◆ 演 武 ◆◆◆

*時間の都合上、演武時間は7分以内とする。試斬り並びに弓術・古武術も7分以内とします。

◆◆◆ 閉 会 式 ◆◆◆

- | | | |
|-----------|---------------|-----------|
| ① 納 め の 儀 | 居 合 道 範 士 九 段 | 柳 田 邦 治 |
| ② 講 評 | 大 会 副 委 員 長 | 竹 田 豊 |
| ③ 閉 会 挨 拶 | 大 会 委 員 長 | 濱 田 鉄 心 |
| ④ 閉 会 宣 言 | 大 会 進 行 委 員 長 | 渡 邊 佳 代 子 |

第三十一回平安神宮

古武道奉納演武大会報告

至誠館 藤井 正巳

令和五年十月一日（日）第三十一回平安神宮古武道奉納演武大会が平安神宮額殿にて開催されました。

秋の雨が降り少し涼しい天気の中大会が執り行われました。

午前八時半すぎには、理事の山田先生を始め、上村先生らが集まり、平安神宮の額殿の準備に取り掛かり、作業を無事に終えました。

午前十時十分より額殿前に参加者が整列し、前の祈祷が終わるのを待ち、平安神宮拝殿にて祈祷、玉串奉納が執り行われました。

平安神宮額殿に戻り、山田文典先生より検証委員等の時間割、役割等の説明があり、続いて大会が開催されました。

「祓いの儀」は範士八段 村田雅人先生の演武で始まり、さらに弓刀錬心館の古式に則った弓の演武、誠正館の演武、神和会、晟慶館A、晟慶館B、剣心会A、修童館C、大誠会、東京蘆洲会、双水執流武尊会、貫心流居合術、理法塾、無双直伝英信流福岡、千葉剣心会、新誠館A、新誠館B、正守和道塾、武学館、松栄館、講道館柔道、大阪修武会、日本古武道直心会、弓刀錬心館居合道、拳正会、無想智心流兵法空手道、正守和道塾、無双直伝英信流愛知、無双直伝英信流愛知、古武道唯心会、剣心会B、至誠館、誠道館、陽武館、修童館B、大阪堺守礼館、素心流居合抜刀術、風伝流修童館A、の先生方の見事な演武が続きました。途中の進行状況は、非常に流れはよく、各道場の先生方が制限時間をきちんと守り大変スムーズになりました。途中の雑音にもめげず集中されて演武がなされたことには、感動いたしました。

写真撮影禁止の看板があり、全体としてうまく機能しておりました。

また、流動警備等においても、トラブル等はなく、無事責務を果たしました。

「納めの儀」では範士九段 柳田邦治先生の気迫のこもった演武で第三十一回平安神宮古武道奉納演武大会は、午後三時二十五分に無事終了致しました。

今大会は、前年に比べスムーズに進行し、威厳が伴っており、はるかに有意義

御礼の御挨拶

第31回平安神宮奉納古武道演武大会も皆様の多大なる御協力と御支援によりお陰様で無事盛大裡に終了いたしました。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

一般社団法人 大日本武徳会

大会参加

ご協賛及びお祝金をいただいた個人及び団体（順不同）

御 芳 名	御 芳 名
濱田 鉄心 様	竹田 豊 様
山本 楠城 様	坂本 俊一 様
山田 文典 様	石本 一平 様
中田 武太 様	井本 敏弘 様
杉生 闌祐 様	日本古式武道協会 拳正会 様
大阪修武会 様	中野 秀人 様
北川 茂 様	梶川 充 様
村上 亨 様	村山 盛哲 様
小松 秀敏 様	山川 正 様
浦谷 一平 様	神和会 様

な大会であり、多くの事柄において改善がなされておりました。おわりに、大会の準備、進行等に携われた先生がたのご協力に深く感謝し、一般社団法人大日本武徳会の今後さらなる発展と、各道場流派の先生方の栄達を祈念申し上げます。









剣心会

「令和五年度昇段級審査会」の開催結果

一般社団法人大日本武徳会理事
一心無双流居合道剣心会総師範

山田 文典

当会におきましては、十月二十八日（土）、滋賀県大津市木戸公民館におきまして、一年の修練の結果を確認する昇段級審査会を実施いたしました。

今年度から受験する形を段級に応じて指定する方法を実施しました。指定する形の発表は、当日実施直前に行うことし、修練したどの形でも演武できるかを試すもので、会場では当初から緊張した雰囲気、漂い受験者からは静かな中にも熱い気迫が伝わっていました。

当会は、上は八十代から下は小学生と年齢幅があり、審査も当日の形実技に加えて、その者の応じた大会・奉納参加回数、稽古参加状況、大会使役等の平常点とで総合的に結果を出しております。

目標は、段級にこだわらず、日本伝統武道の継承・発展にあり、年齢・技量に応じた取り組みの成果として示しているところです。

当日は、十名の剣士が受験し、全員見事に合格、更には二段階上がる飛段級を果たした者が三名有り、極めて好成績の結果となりました。

これも春の第六回世界武徳祭、夏の青少年武徳祭、猛暑の中での合宿稽古、秋の平安神宮奉納大会の他、地元神社奉納や地域イベント参加などを経ての結果であったと思います。

そして閉会后、久々に懇親会を実施し、地元名物の「近江軍鶏のすき焼き」に舌鼓を打ちながら大いに盛り上がり、団結を深める良い機会となりました。



「範士九段 毛利友彦元春宗家」の遺影を囲んでの記念撮影

剣心会「令和六年免状授与式

及び合同稽古始め」の開催結果

一般社団法人大日本武徳会理事
一心無双流居合道剣心会総師範

山田 文典

当会におきましては、一月十三日（土）、滋賀県彦根市西地区公民館におきまして、恒例の新春行事を実施いたしました。

昨春秋に実施した昇段級審査の合格者に対し免状を授与し、流派全員が集まって稽古始めを行うもので、今年は十二名に免状に授与いたしました。

当流派は現在、滋賀県琵琶湖を挟んで四道場を構えて活動しており、今回は彦根において開催したことで湖北を中心に会員の参加が多くありました。

彦根には、「国宝彦根城」近くに当流派彦根道場があり平成十七年二月に道場を開き、本会主催行事はもとより、彦根城記念イベントや地元神社への奉納演武など地道な活動を続けております。

当日は昼から雪が強風と共に吹き荒れる悪天候となりましたが、会場は気迫と熱意に満ちた雰囲気の中、免状授与式、新春挨拶の後、桐畑師範代の祓いの儀、道場ごとの初抜き演武と続き、総師範による基本技指導、最後は、彦根道場長中村師範代の納めの儀により終了いたしました。

そして閉会后、彦根駅前では新春懇親会を実施し、平素別個に稽古している各道場の剣士が親交を深め、今年の積極的な取り組みを語り合うなど大いに盛り上がり、更なる団結を深める良い機会となりました。



当日参加した昇段級者との記念撮影